

モンゴルの白い馬

ワンミン
王敏・文

リシヨウジヤン
李曉軍・絵
(小峰書店)

ある夜のこと、スーホは、すさまじい馬のいななきと、
ひつじのさわぎ声で目がさめました。

あわててとびだしてみると、白い子馬が、
いっぴきの大きなおおかみと、ひっしに たたかっていました。

スーホは、棒をふりあげ、白い馬といっしょに、おおかみをおいは
らいました。

スーホは、あせびっしよりになった白い子馬をなでながら、
かたりかけました。

「ありがとう。ひつじは、ぶじだったよ。」

白い子馬は、ゆっくり頭をふり、スーホにほおずりました。